



終戦記念日によせて 代田・九条の会 久しぶりのつどい

8月14日、コロナ禍で開けなかった「終戦によせて」のつどいを2年ぶりに開催しました。(新装なった花見堂地区会館)

第1部では当会事務局の一人でもある真藤 一彦さんによる尺八演奏とお話。第2部では、戦争体験やウクライナに関して語り合うという企画でした。

第1部

紹介された真藤さん。尺八で、『鹿の遠音』を鮮やかに吹いた後、ジャズナンバーの『サマータイム』を聞かせてくれました。そして、興味深いおはなしに！

尺八は竹まかせ。太さも長さも竹次第。自然を受け入れ、吹き手によって音はそれぞれ。

日本列島がどうやって出来たか。4つのプレートの影響を受けて形作られてきた、世界屈指の地震国。北から南まで、多様な生物にうち食べ物も豊富など、引き込まれるお話です。締めくくりにも2曲演奏。最後の曲はジョン・レノンの『イマジン』でした。

第2部

戦争体験では代田在住の荒川 興道さんが、事前に準備された資料を配り満洲からの引き揚げの体験を話されました。(本人は4歳で記憶になかったところは、長姉から聞き取りなどして) 満洲での暮らし、国民党軍やソ連軍に住居を占拠されたり、父親が国民党軍に連行されたりもあり、引き揚げ船で佐世保港に上陸したのは、1947年3月。家族揃って帰国はしたが、実家は焼失。そこから、母方の実家に行き、2年後世田谷に来たという。

俳優の湯沢 勉さんの話は、セリフを表現してみたり、戦争を描いた映画の話や、その舞台となった土地についての話に笑いも。

参加された皆さんから、「疎開先でのいじめ」、「母親の着物で食料」、「すぐ近くで機銃掃射」、「貧しかった家に物乞いが来る、さらに貧しい人」など、参加者それぞれの戦争の記憶や体験が、次々話されました。

「戦争は、始めてはダメ。始まったら止められないのだから」「九条は守らないと」みんなのおもいです。

参加18名でした。



写真撮影：小澤 満吉



戦争体験を語る

日中、15年戦争の発端は…

今から91年前の1931年9月18日、柳条湖＝リウティアオフー＝事件が勃発した。その後、足かけ15年にも亘る日本の中国侵略戦争の発端です。柳条湖事件とは、関東軍の高級参謀・板垣征四郎大佐や作戦主任参謀・石原莞爾中佐らが、9月18日夜、奉天（現在の瀋陽＝シェンヤン＝）郊外の柳条湖の満鉄線上で爆薬を仕掛け、これをきっかけに中国東北軍兵舎（北大営＝ペイターロン＝）を攻撃、戦争を始めた事件。日本では、この戦争を一般的に「満州事変」と言っているが、中国では「九一八＝ジュウイーバー＝事変」と呼ばれている。

日本は翌年（1932年）占領した中国東北部に「満州国」を建国。清朝の末えいとされる愛新覚羅溥儀＝アイシンチュエル・プーイー＝を皇帝に祀り上げた。カイライ政権の誕生である。

ソ連軍に自宅を占領され

私は、1941年6月22日、旧満州大連市老虎灘＝ラオフータン＝で6人兄弟姉妹の末っ子として生まれた。兄弟が多いせいで姑娘＝クニヤン＝に面倒を見てもらっていた（長姉に聞いた話）。1945年8月15日の敗戦により、国民党軍にレンガ作りの自宅を接収された。

しかし、同年9月にはソ連軍が進駐してきて、今度はソ連軍の将校に自宅を占拠された。それが一年半続いた。主に食料を商う父親は、国民党軍に一時連行されたが、その後、解放された（長姉に聞いた話）。

一時、満州には155万人の日本人が居た。1946

年5月から引き揚げは始まり、黒竜江省・吉林省・遼寧省の奥地から順次、実施された。敗戦直後からのソ連軍の満州侵攻により、開拓団は苛酷で悲惨な“逃避行”を強いられることに。いわゆる「中国残留孤児」を生み出す背景になった。

最後の引き揚げ船で佐世保港へ

満蒙開拓団を含めて、大連港からは105万人が長崎県の佐世保港へ引き揚げた。荒川家は大連港内の収容所に2週間留め置かれた後、1947年3月1日に家族8人で無事、佐世保港に上陸した。列車で名古屋を目指したが、空襲により実家は焼失。長野県の母方の実家に数日後、落ち着いた。1949年上京し、世田谷に。

私たちの乗った興安丸が最後の引き揚げ船とのことだった。

（代田1丁目・荒川 興道）



荒川 興道さん



参加者の感想から

*地域で、このような会を、この時期に開くのは意義深いことと思います。

戦争体験者や若い人など、参加の輪がもっと広がるといいですね。

*「平和」という意味などもっと気楽に話したい

軍拡で「国民の生命と暮らし」は守れない

ロシアによるウクライナ侵攻、台湾をめぐる緊張に乗じて政府自民党は軍事力拡大を声高に述べています。メディアも人々の不安をあおっているように思います。

米国の要請か、日本側の忖度なのか、「防衛費をGDP比2%に」「敵基地攻撃能力保持」を年末に向けて「国家安全保障戦略」に策定しようとしています。22年度の防衛費は5兆4千億円です。GDP比2%になると5年間で11兆円になるのです。

これらの費用はどこから出るのでしょうか。国債発行、増税、社会福祉費削減などが予想されているようですが・・・長い新自由主義経済政策により格差が進み、コロナ禍のもと多くの人々の暮らしは困窮しきっています。社会福祉

費削減はあってはならないでしょう。

岸田首相は「国民の生命と暮らしを守る」ために軍拡が必要と力説していますが、軍事費増強で人々の生命と暮らしを守ることはできないと思います。軍拡すれば周辺国を刺激し、危険を呼び寄せることになりかねません。暮らしを守るための有効な貧困対策、格差是正策もなされているとは思えません。軍拡に使う費用を社会福祉費、教育費にあてるのが良いのではと訴えたいです。

不安をあおって軍拡を進めようとする力に同調してはならないと思います。流れに流されないように冷静に考え、家族や友人と話し合うのが今、必要と考えています。

(代田5丁目・日暮恵子)

日本国憲法(抜粋)

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

第99条 天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。

集会等の紹介

**以下の案内があります。今後の状況によっては中止もありますので、ご注意ください。

8月31日(水) 18:00~

9月27日(火) 時刻未定

安倍元首相「国葬」反対！ 国会正門前大行動

場所 : 国会議事堂正門前

主催 : 安倍元首相の『国葬』に反対する実行委員会

呼びかけ: 戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

9月19日(月・休日) 13:30~

改憲発議と大軍拡やめろ！ さようなら戦争 さようなら原発 9・19大集会

場所 : 代々木公園野外ステージ B地区、ケヤキ並木 (JR原宿駅または渋谷駅)

共催 : 戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

さようなら原発・100万人市民アクション実行委員会

~ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ~

+++ このニュースを、ぜひ、周りの人に広めてください。 +++

2022年7月29日 九条の会事務局

7月10日に行われた参議院選挙は、自民党、日本維新の会が議席を増やし、公明党、国民民主党を合わせた改憲4党の議席が3分の2以上を占めました。一方、市民連合の働きかけに応じた野党共闘は、過去二回の参議院選挙とは異なり限定的なものにとどまり、立憲民主党、共産党とともに議席を減らしました。改憲に向けた動きの加速が懸念されます。

自民党は、選挙公約で、改憲4項目を提示し、「憲法審査会で改正原案の国会提案、発議を行い、国民投票を実施する」としています。維新の会は、「9条に自衛隊を明記」、「緊急事態条項を創設」との公約を掲げ、自民党に「憲法改正のスケジュールを示せ」と迫りました。国民民主党は「緊急事態条項の創設」を主張し、9条については「議論を進める」と述べ、公明党は「憲法9条1項、2項は今後とも堅持する」としつつ、憲法72条など別の憲法条項に自衛隊の存在を明記する「検討を進める」と、明文改憲に向け踏み込みました。

岸田文雄首相は、選挙結果を受けて11日、選挙戦終盤の演説中に銃撃され死去した安倍晋三元首相の改憲への「思いを受け継ぐ」として、「具体的な内容について3分の2の賛成を結集し、できる限り早く発議に至るとりくみを進める」と述べました。さらに安倍元首相の国葬を強引に閣議決定し、これを最大限に利用しながら、この秋の臨時国会から来年の通常国会にかけて、改憲原案の作成、憲法審査会への提出、議論が進められようとしています。また、「敵基地攻撃」能力の保有と大軍拡、辺野古新基地建設をはじめとする南西諸島での軍備強化のゴリ押しなどを、強力におすすすめようとしています。

しかし、4党の間にはめざす改憲条項や改憲への姿勢に隔たりがあり、改憲が一直線に進む状況ではありません。選挙終盤7月4、5日の朝日新聞の世論調査では、改憲賛成36%、反対38%と大きく分かれていました。多くの有権者は改憲を望んでおらず、今回の選挙で改憲の動きが支持されたわけではありません。私たちの頑張り次第で国会内での改憲勢力の企てを止めることは可能であり、これまでもそうしてきました。

岸田政権は改憲の動きをロシアによるウクライナ侵略と中国の脅威などを口実に推し進めています。しかし、ロシアの蛮行を止めさせるために求められているのは、「戦争反対」「国連憲章守れ」との圧倒的な国際世論の結集であり、「核兵器使うな、なくせ」の世論の拡大であり、敵対的な軍事同盟の強化ではなく、対話と協力の包摂的な平和の枠組みの構築の努力です。東アジアの平和にとってもこの方向の探求が求められています。

私たちは、憲法施行後75年にわたって憲法を守り抜き、これまでも改憲派が衆参両院で3分の2を占めるもとでも改憲発議を許してきませんでした。九条の会は、憲法9条とそれに基づく日本の社会が最大の危機を迎えている今、対話や署名・宣伝など創意工夫をこらして行動を起こし、草の根から市民の共同で憲法を守り、生かす取り組みをすすめることを呼びかけます。

**9条破壊
許さない!**